

エコアクション21

環境活動レポート

第8版 2016年度版（第19期：2015年9月～2016年8月）



鶴見工場竣工（2007年12月）

作成日 2016年9月9日



(株)ベックカワムラ

1. 環境方針

(株)ベックカワムラは地球環境問題の重要性を認識し、事業活動を通して地球環境保全に貢献します。

1. 環境負荷の削減

当社の事業活動で発生する下記の環境負荷を低減します。

- ①製品、サービスに関する環境配慮
- ②化学物質の適正管理・・・・・・・・塗装薬剤、排水薬剤等の適正管理
- ③グリーン購入の推進・・・・・・・・事務用品等のグリーン購入の推進
- ④二酸化炭素排出量の削減・・・・・・・・LPG等化石燃料、購入電力の削減
- ⑤排水量の削減・・・・・・・・必要最低限の使用で水使用量の削減
- ⑥産業廃棄物排出量の削減・・・・・・・・汚泥、廃プラの削減

2. 法規制等の遵守

環境関連の法規制、その他の要求事項を遵守し、環境汚染の改善予防に努めます。

3. 環境保全意識の向上

定期的な教育により環境への取り組みを周知させ、全従業員の環境保全意識の向上に努めます。

改訂年月日 2011年10月22日

制定年月日 2007年11月12日

株式会社 ベックカワムラ

代表取締役社長 河村要一



2. 事業活動の概要

1. 対象事業所名及び代表者名

事業所名	株式会社ベックカワムラ
代表者名	河村要一
所在地	本社・コーティング工場 〒430-0852 浜松市中区領家1-7-23 鶴見工場 〒435-0022 浜松市南区鶴見町2702-9
連絡先	鶴見工場 TEL 053-422-8888 FAX 053-422-8887
環境管理責任者	常務取締役 河村浩利
メールアドレス	hiro-kawamura@bec-k.co.jp

2. 事業内容

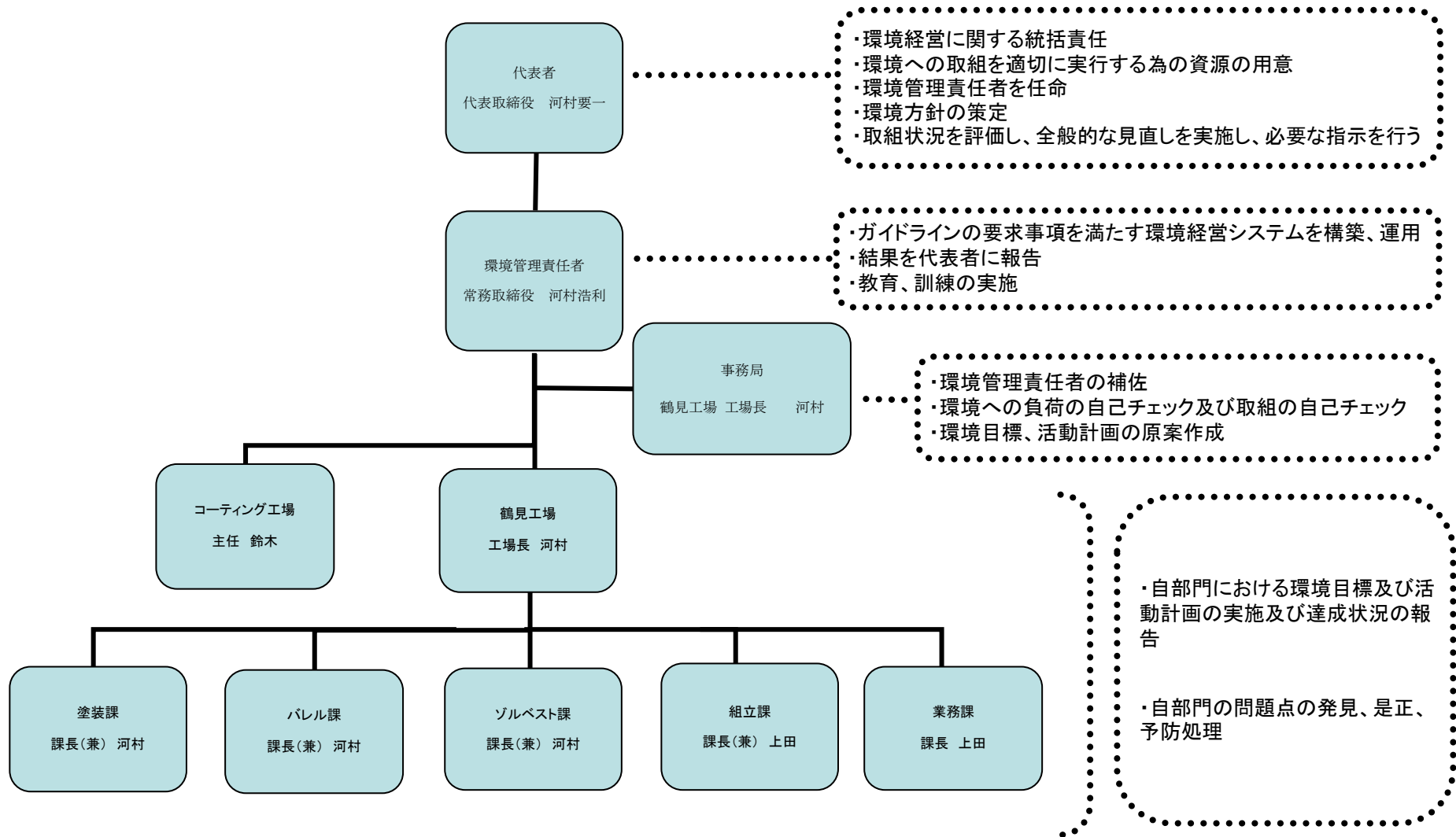
輸送機器部品の加工

- ①カチオン電着塗装（鶴見工場）
- ②バレル研磨（同上）
- ③固体潤滑剤コーティング（同上）
- ④磷酸亜鉛皮膜処理（同上）
- ⑤エアースプレー塗装（同上）
- ⑥樹脂コーティング（コーティング工場）

3. 事業規模 2016年8月（2015年9月～2016年8月）

創業	1959年12月
資本金	10,000,000円
従業員数	38名（パート、派遣社員含む）
工場床面積	5,919㎡ 本社、コーティング工場：382㎡ 鶴見工場：5,537㎡

3. 実施体制 (修正版：鶴見工場移転による08年5月～) 改訂：2008年5月1日



- ・環境経営に関する統括責任
- ・環境への取組を適切に実行する為の資源の用意
- ・環境管理責任者を任命
- ・環境方針の策定
- ・取組状況を評価し、全般的な見直しを実施し、必要な指示を行う

- ・ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、運用
- ・結果を代表者に報告
- ・教育、訓練の実施

- ・環境管理責任者の補佐
- ・環境への負荷の自己チェック及び取組の自己チェック
- ・環境目標、活動計画の原案作成

- ・自部門における環境目標及び活動計画の実施及び達成状況の報告
- ・自部門の問題点の発見、是正、予防処理

4. 環境目標

1. 中期目標

2013年8月度の実績を基準とする。

環境活動	単位	基準	2014年 8月度目標	2015年 8月度目標	2016年 8月度目標
		2013年 8月度実績			
製品、サービスに関する環境配慮		配送ルート の効率化	環境に配慮する		
化学物質の適正管理		排水処理薬品 補給量の適正 管理	適正に管理する		
グリーン購入の推進		コピー用紙購 入時に検討	購入時にはグリーン購入 に配慮する		
二酸化炭素排出量の削減 2016年8月迄に3%削減	kg・CO2	730, 523	723, 218	715, 913	708, 607
排水量の削減 2016年8月迄に3%削減	m ³	27, 127	26, 856	26, 584	26, 313
産業廃棄物排出量の削減 2016年8月迄に3%削減	kg	45, 910	45, 451	44, 992	44, 533

※二酸化炭素排出量の把握にはCO2排出係数0.486kg-CO2/kWhを用いました。

※（中部電力㈱の平成27年度実排出係数：下記サイトより情報入手
https://www.chuden.co.jp/kankyo/publication/pub_data/pubd_co2.html

2. 短期目標実績

2016年度迄の実績値は下記の通りです。

項目	単位	基準	2014年度 実績値	2015年度 実績値	2016年度 実績値
		2013年 8月度実績			
製品、サービスに関する環境配慮		配送ルート の効率化	配送ルート の効率化	配送ルート の効率化	配送ルート の効率化
化学物質の適正管理		排水処理薬品 補給量の適正 管理	研磨薬剤の 適正管理	排水処理薬剤 の適正管理	燐酸ライン薬 剤の適正管理
グリーン購入の推進		コピー用紙購 入時に検討	事務用品 購入時に検討	事務用品 購入時に検討	事務用品 購入時に検討
二酸化炭素排出量	kg・CO2	730, 523	767, 072	684, 932	626, 352
排水量	m ³	27, 127	28, 453	24, 635	23, 937
産業廃棄物排出量	kg	45, 910	50, 480	36, 250	20, 230

5. 環境活動の具体的取組

1. 製品、サービスに関する環境配慮

※通年の活動とする。

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	製品、サービスに関する環境配慮	環境配慮	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
				組立課
鈴木主任	コーティング工場			

2. 化学物質の適正管理

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	化学物質の適正管理	適正に管理する	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
鈴木主任	コーティング工場			

3. グリーン購入の推進

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	グリーン購入の推進	購入時にはグリーン購入に配慮する	上田課長	業務課

4. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	化石燃料使用量の1.0%削減	ブタンガス使用量の削減	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
				作業室
			鈴木主任	コーティング工場
2	電気使用量の1.0%削減	不必要電灯の消灯	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
鈴木主任	組立課			
鈴木主任	コーティング工場			

4. 二酸化炭素排出量の削減

※通年の活動とする。

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
3	電気使用量の1.0%削減	省エネ運転の検討と実施	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
				組立課
鈴木主任	コーティング工場			

5. 排水量の削減

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	排水量の1.0%削減	節水運転の検討と実施	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
鈴木主任	コーティング工場			

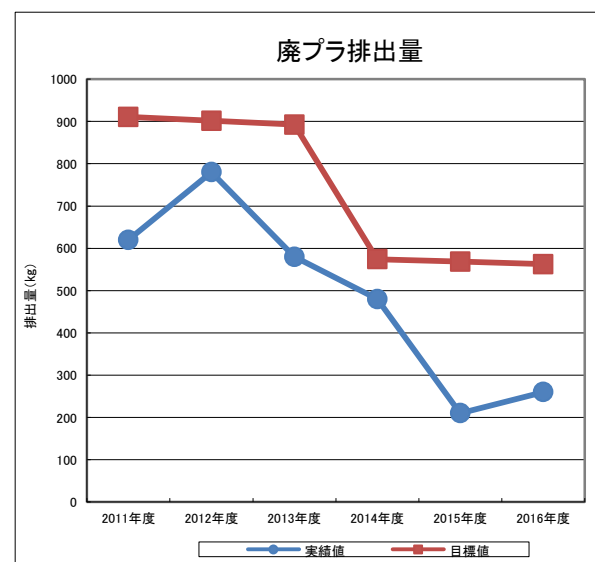
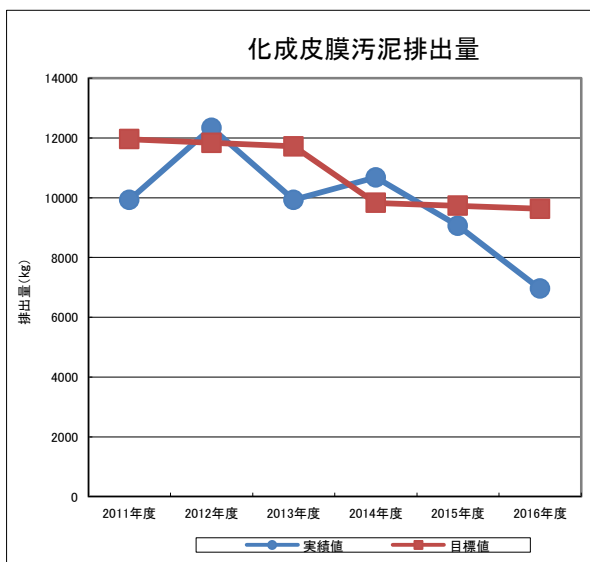
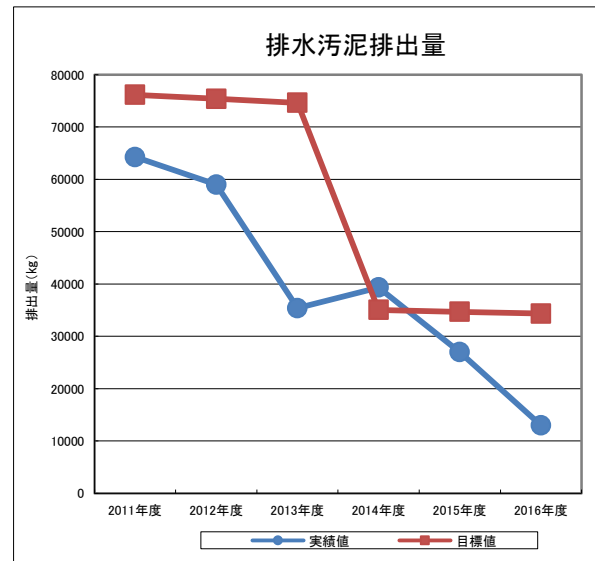
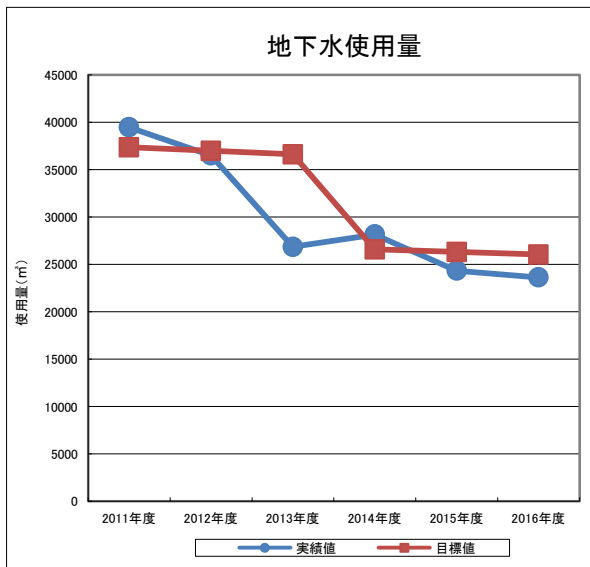
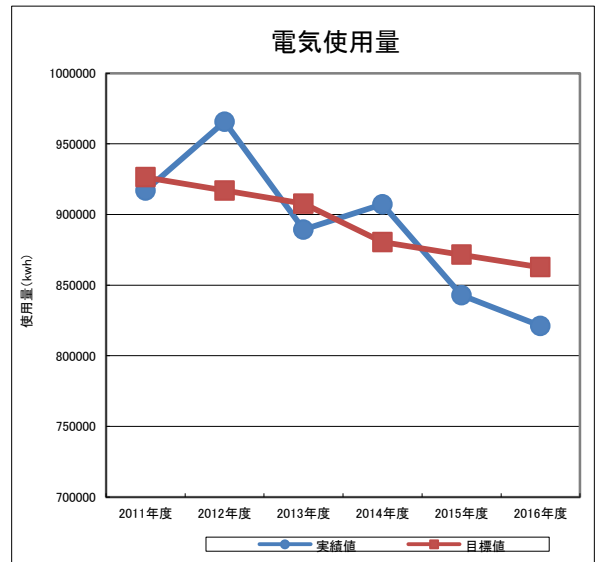
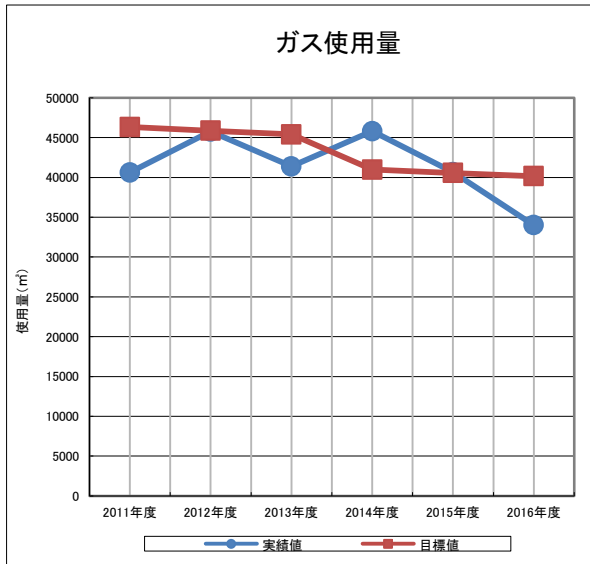
6. 産業廃棄物排出量の削減

取組目標		活動項目	責任者	責任部署
1	汚泥量の1.0%削減	汚泥削減方法の検討と実施	河村工場長	塗装課
2	廃プラの1.0%削減	廃プラ削減方法の検討と実施	河村工場長	塗装課
				バレル課
				ゾルベスト課
			上田課長	業務課
				組立課
鈴木主任	コーティング工場			

6-1. 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容

項目	単位	基準		2014年度 実績値 13/9月～14/8月	目標値 比	評価	2015年度 実績値 14/9月～15/8月	目標値 比	評価	2016年度 実績値 15/9月～16/8月	目標値 比	評価		
		2013年度 実績値 12/9月～13/8月	2014年度 目標値											
製品、サービスに関する環境配慮		配送ルートの見直しによる車両削減	環境に配慮する	配送ルートの効率化	/	○	環境に配慮する	配送ルートの効率化	/	○	環境に配慮する	配送ルートの効率化	/	○
化学物質の適正管理		排水処理薬品補給量の適正管理による汚泥削減	適正に管理する	研磨薬剤の適正管理	/	○	適正に管理する	排水処理薬剤の適正管理	/	○	適正に管理する	燐酸ライン薬剤の適正管理	/	○
グリーン購入の推進		コピー用紙購入時に検討	購入時にはグリーン購入に配慮する	事務用品購入時に検討	/	○	購入時にはグリーン購入に配慮する	事務用品購入時に検討	/	○	購入時にはグリーン購入に配慮する	事務用品購入時に検討	/	○
二酸化炭素排出量	kg・CO2	730,523	723,218	767,072	106%	×	715,913	684,932	96%	○	708,607	626,352	88%	○
	kg・CO2/売上	1,211	1,199	1,311	109%	×	1,187	1,378	116%	×	1,175	1,333	113%	×
排水量	m ³	27,127	26,856	28,453	106%	×	26,584	24,635	93%	○	26,313	23,937	91%	○
	m ³ /売上	44.99	44.54	48.64	109%	×	44.09	49.57	112%	×	43.64	50.93	117%	×
産業廃棄物排出量	kg	45,910	45,451	50,480	111%	×	44,992	36,250	81%	○	44,533	20,230	45%	○
	kg/売上	76.14	75.37	86.29	114%	×	74.61	72.94	98%	○	73.85	43.04	58%	○

6-2. 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容



6-3. 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容

項目		コメント
製品、サービスに関する環境配慮		配送ルートの見直しにより目標を達成した。次年度からは引き続き環境配慮を強化していく事とする。
化学物質の適正管理		燐酸ライン薬剤の適正管理により目標を達成した。次年度からは引き続き化学物質の適正管理を強化していく事とする。
グリーン購入の推進		事務用品購入時に検討した事により目標を達成した。次年度からは引き続きグリーン購入の推進を強化していく事とする。
二酸化炭素排出量	化石燃料	総使用量にて大幅に目標を達成した。これは生産性向上活動が寄与したことによるもの及び受注量の減少による結果と推測する。次年度からは目標を達成する為、引き続き改善活動を強化していく事とする。
	電気	総使用量にて大幅に目標を達成した。これは生産性向上活動が寄与したことによるもの及び受注量の減少による結果と推測する。次年度からは目標を達成する為、引き続き改善活動を強化していく事とする。
排水量	地下水	総使用量にて目標を達成したが、原単位にて目標は未達成であった。これは生産性向上活動が寄与したことによるもの及び受注量の減少による結果と推測する。次年度からは目標を達成する為、引き続き改善活動を強化していく事とする。
産業廃棄物排出量	汚泥	総使用量及び原単位にて目標を達成した。これは排水処理の薬剤を変更した事により排水汚泥が大幅に減少した為と推測する。次年度も引き続き改善活動を強化していく事とする。
	廃プラ	総使用量及び原単位にて目標を達成した。これは生産性向上活動が寄与した為と推測する。次年度も引き続き改善活動を強化していく事とする。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

作成日：2015年9月8日

作成者：常務取締役 河村浩利

法規	適用内容	適用設備	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設 (65-酸又はアルカリによる表面処理施設)	鶴見工場 排水処理施設	○
浄化槽法	浄化槽法第10条の定期点検	鶴見工場 浄化槽	○
	浄化槽法第11条の法定点検		○
騒音規制法	特定施設	鶴見工場 ブラスト、タンブ ラー、空気圧縮機、 送風機	○
振動規制法	特定施設	鶴見工場 せん断機、圧縮機	○
悪臭防止法	規制基準（浜松市） 臭気指数10	全工場	○
廃棄物処理法	処理業者との契約 産業廃棄物処理委託契約書の作成・保管 マニフェストの起票・保管 交付報告書提出 産業廃棄物保管置場掲示	化成汚泥 廃プラ 廃アルカリ 廃油、他	○
静岡県生活環境保全条例	一般粉塵発生施設	鶴見工場 吹付塗装ブース	○
労働安全衛生法	作業環境	鶴見工場 有機溶剤 粉塵 等価騒音	○
工場立地法	新設工場の届出	鶴見工場	○

1. 環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

2. 訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し

2007年12月にエコアクション21をキックオフし、無事に第9期目が終了致しました。今期は、総使用量にて二酸化炭素排出量、排水量、産業廃棄物排出量の全てにて目標値をクリアー、原単位では産業廃棄物排出量のみが目標をクリアーする事ができました。これは生産性向上活動、受注量の減少、排水処理薬剤変更による排水汚泥の減少が大きな要因であると思われます。地道な全社的改善活動が生産性向上に繋がり、それがエコアクション活動において大きな効果をもたらし、最終的には当社の業績にも大きく左右する事が全従業員が改めて実感できる事と確信しております。

現在のところ、環境方針及び環境経営システムについては変更する必要はないと判断しますが、次期からは2016年8月度の実績値を基準とし、3年間で3%の削減を目標と致します。

2016年9月8日

株式会社ベックカワムラ
代表取締役社長 河村要一

